

# 地方民鉄紀行

文・写真

松澤美穂



変わりつつある駅を出て  
電車はいつもの街を行く  
沿線には  
霽囲気の良いお店  
静かな神社  
世界遺産  
旅人には羨ましい日常

2025年3月、数年の大工事を経て新しい広島駅ビルが開業。新駅ビルには商業施設やホテルも入る。そして夏には、広島電鉄・広島駅電停を発着する路面電車は、新駅ビルの2階に高架になって乗り入れる。

### 新駅ビル開業 お別れの景色も……

工事がすっきり外れ、あとは開業を待つばかりといった印象の新駅ビル。そのビルの足元付近でまだまだ絶賛工事中なのが、新駅ビルの2階に広島駅電停を移すことに伴う、高架工事。ビル開業から少し遅れた夏頃の完成を目指しているというから、そろそろラストスパートに入るところだろうか。

現行の広島駅電停は、工事中の高架の下辺りで運用中。路面電車の区間距離は短く、目で見えるほどの距離に次の電停・猿猴橋町電停がある。この猿猴橋町電停は、高架工事が終わり、新しい広島駅電停の運用が開始されたら、廃止になる。

次に広島に来る時には、路面電車が駅ビル2階に滑り込んでいく姿が見られるんだなと思いつつ、その時にはもうなくなっている電停とその道を走る電車を見る。楽しみだけど、ちょっとせつない。せつかなので、猿猴橋町電停から乗車。

路面電車らしく赤信号に止められつつ、ゆっくり広島市内を走る。原爆ドーム前電停を過ぎると、観光客らしい乗客の姿が減り、車窓の景色は繁華街から住宅街に変わっていく。それでも車内は常にほぼ満席。住民の移動手段として街に根付いているのが分かる。

ガタゴト揺られること約40分、広電西広島電停に到着。路面電車はここでおしまい。乗り換えの必要はないけれど、ここから広島宮島口駅までを結ぶ宮島線は、路面電車ではなく鉄道路線。電車は車道ではなく専用の線路を走る。赤信号に止まる必要がなくなったせいか、電車は一気にスピードアップ。

### 川なのに潮が満ち引き？

2022年に開業100周年を迎えた宮島線。車窓にはマンションや戸建て住宅が立ち並び、駅の近くには個人商店や複合商業施設、市役所や病院もある。まさに地域密着型の「生活沿線」だ。

途中下車するのに選んだ駅は修大協創中高前駅。駅近くを流れる八幡川の鉄橋は、電車が水面を走るように見えるお勧めの撮影スポットだという。住宅街の狭い道を通り抜け、川べりにたどり着き鉄橋を見ると、川が、ない？ 電車が来たので写真を撮ってみるも、水面と呼べるものがほとんどない状態。

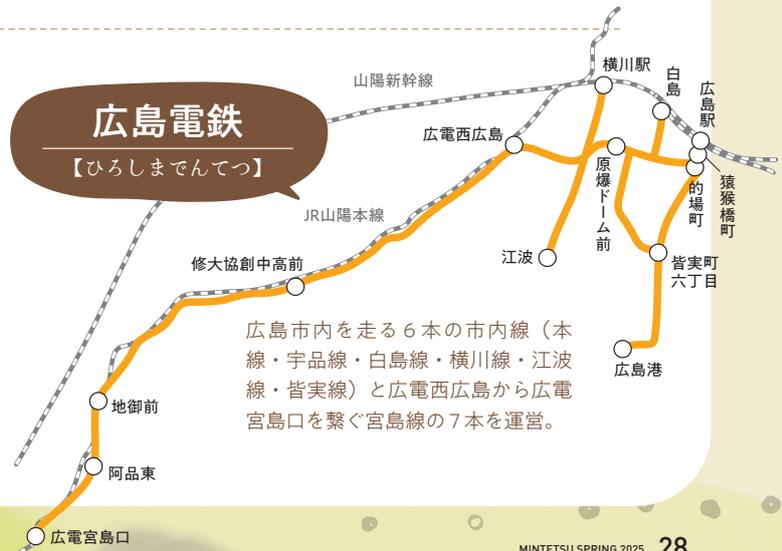
「いい写真撮れた？」。声をかけてくれた散歩中の年配男性に、川に水が……と訴えると、「潮が引いちゃっているからね」と笑われる。海に近い宮島線沿線、川であっても河口部になるため潮の満ち引きの影響がある。撮影ポイントのお勧め文をよく読めば、「満潮時に水面を走るように見える」とちゃんと書いてあった。歩いて渡れそうなくらい水の引いた川の景色も珍しいので、良しとする。駅に戻る道すがら、住宅街の一角に「OPEN」の看板を出したお店を発見。店内



高架工事はラストスパート。新広島駅電停は駅ビル2階に移る。



廃止になる「猿猴橋町電停」。奥には広島駅電停が見える。



## 広島電鉄

【ひろしまでんてつ】

広島市内を走る6本の市内線（本線・宇品線・白島線・横川線・江波線・皆実線）と広電西広島から広電宮島口を繋ぐ宮島線の7本を運営。

住宅街の一角にある焼き菓子屋さん「SWINGING BIRD KITCHEN」で。ガトーショコラは軽い口当たりでいくらでも食べられそう。



満潮時には、電車が水面を走るように見えるとか。

の暖かさを示すように曇ったガラス戸が開き、フワッと漂う甘い香り。吸い込まれるように入店すれば、お皿に盛りられたクッキー、スコーン、マフィン……甘い誘惑に一瞬で陥落。コーヒー片手にガトーショコラを頬張り、一休み。旅先で良いお店に出会うのは複雑な気分。そう簡単には来られない。地元にもこんなお店があったらいいのに。

### まずは外宮の神様にご挨拶

糖分チャージを終えて向かうのは、修大協創中高前駅から7つ目、地御前駅にある地御前神社。

神社を目指して歩くこと数分、JR山陽本線の踏切を渡った道路沿い右手、唐突に拝殿が現れる。いつの間境内にいったのが。鳥居はどこか。周囲を見渡してみると、まずは海、そして国道と宮島線。線路への侵入を防ぐ柵があつて、狛犬・鳥居、一般道。道路を挟んで地御前神社拝殿・本殿・客人本殿。そのすぐ後ろをJR山陽本線が走っている。どこからどこまでが境内なのか分からない面白い配置の地御前神社は、厳島神社と同時期に創建された外宮。島そのものがご神体の宮島は、かつては厳しく入島が制限されていて、人々是对岸に建てられたこの地御前神社から拝礼していたのだとか。創建当時はいくつもの殿舎を備えた神社だったらしいから、時代の変化・暮らしの変化に併せて道路や線路に敷地を譲ってきたのかもしれない。

さて、鳥居の下の芝生に道らしいものはないけれど、参拝にはやっぱり鳥居をくぐった

方が良いのだろうか。迷っていると、拝殿前を横切る一般道をベビーカーを押して歩いてきた女性が、ふと立ち止まって手を合わせていく。それでいいんだ。街の中に半分溶け込んだような形になった神社は、地域の人の暮らしにも溶け込んでいる。女性に倣って道路から参拝。外宮に参拝した後は、本宮・厳島神社へ。

### フェリー上で期待膨らむ旅景色

厳島神社のある宮島に渡るフェリー乗り場は、宮島線終点・広電宮島口駅のすぐ目の前。15分程の間隔で運行されるフェリーが、絶え間なく観光客を宮島に送り届けている。

乗船時間10分程度で宮島に到着。棧橋から厳島神社をつなぐ参道には、名物のもみじ饅頭や牡蠣、民芸品などを扱うお店が立ち並び。食べ歩きを楽しむ人々の間をすり抜け、後ろ髪をひかれつつ、先を急ぐ。

商店街を抜け、石造りの大きな鳥居をくぐると、参道の右側に人が集まり、その向こうに、かの有名な朱塗りの大鳥居が見え隠れしている。満潮時には海に浮いているように見え、干潮時にはその足元まで歩いて行けるほどに潮が引く大鳥居。八幡川の鉄橋で、潮の影響でほとんど水が流れていない状態の川を眺めてから数時間。厳島神社の潮はどれほど満ちているか、引いているか。近くで見ると楽しみに、フェリー乗船中もあえて見ないようにしていた大鳥居ににじり寄る。

旅先の景色は一期一会。果たして今日は、どんな大鳥居が見られるか。



満潮にはまだまだの状態の大鳥居。水際ぎりぎりまで歩いていける。



広電宮島口駅。フェリー乗り場は、駅目の前。

地御前神社の拝殿(上)。拝殿の前を横切る一般道を挟んで鳥居と狛犬。鳥居をくぐるための舗装された参道はない(下)。

